

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県大崎市立鹿島台小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒989-4103
宮城県大崎市鹿島台平渡字上戸 1

E-mail : osaki_kashimadai@educ.osaki.miyagi.jp

Website : http://www.pref.miyagi.jp/sosshiki/nh-kyoz/

児童生徒数：男子 289 名 女子 263 名 合計 552 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

鹿島台小学校では、平成14年に「シナイモツゴの里親」になり、平成15年6月から「シナイモツゴ郷の会」の方々の支援をいただき、「シナイモツゴ」の飼育と保護の活動を通して、4学年の総合的な学習の時間で環境教育を進めてきました。

1 「シナイモツゴ」を通じた環境教育

学習活動の目的は、「地域の宝である『シナイモツゴ』の飼育と保護活動を通して、地域を見つめその良さを知り、地域を愛する心を育てながら、同じ絶滅危惧種の住む宮城県や日本・世界の環境に目を向けさせる。」ことです。

学習は、4年生の総合的な学習の時間で1年間通して行い、次年度の4年生（現3年生）に活動報告を行って引き継ぎます。活動内容は以下のとおりです。

(1) 1学期の活動

1学期は、「シナイモツゴを知ろう」ということから活動を始めます。シナイモツゴについて、あらためて引き継いだことを参考にしながら飼育と観察します。5月には、シナイモツゴ郷の会の方を講師にお迎えして、学級ごとにシナイモツゴの生態や飼育の仕方について教えていただきます。児童は、活動報告をしてくれた前年度の4年生の内容と合わせて、ここで詳しくシナイモツゴについて知るようになります。この郷の会の方の指導を受けて、本格的な飼育と観察活動が始まりました。学級ごとに3つの水層があり、それぞれの学級で当番を決めて、観察日記を書き累積してきました。

学校には水槽の他の校庭に飼育池があり、そこでもシナイモツゴの飼育を行っていますが、池の破損があり修理及び水質の関係から今年度6月までは、飼育ができませんでしたが、6月以降に植木鉢に産みつけられた、シナイモツゴの卵を飼育池の中に設置して、飼育活動を開始しました。

シナイモツゴ郷の会のみなさんには、学級毎に会の活動の実際と、シナイモツゴの保護活動及び飼育、他の絶滅危惧種や天敵となる外来種の駆除などの話を映像や具体的な資料をまじえて教えていただきました。また、活動の中には地域の環境保全などの活動もおこなっており、7月には、シナイモツゴの稚魚の放流が鹿島台地区の池で行われ、児童全員が参加して放流活動を行いました。

1学期はこのような活動をしながらか児童は、シナイモツゴの飼育活動とあわせて自分なりに総合的な学習の時間での学習課題の設定について、シナイモツゴの飼育・保護、環境、絶滅危惧種、天敵などのキーワードをもとにしながら、課題を設定して、その解決方法について検討を重ねてきました。

(2) 2学期の活動

2学期は、児童が個人ごとに設定した課題について、自主的に調べながら解決していく活動と、似たような課題を設定した児童同士でグループを作り、3年生への発表の準備を行うことにしました。

児童が課題して設定した内容は以下のようなものです。

- ① シナイモツゴの飼育の仕方について
- ② シナイモツゴの生態（性質、生息場所など）
- ③ シナイモツゴの個体数について
- ④ シナイモツゴの産卵について（産卵数、産卵時期、水温など）
- ⑤ シナイモツゴのような絶滅危惧種について
- ⑥ シナイモツゴが減った原因

- ⑦ シナイモツゴ以外に川や池に生息する生き物
- ⑧ 天敵としての外来種（ブラックバス、ブルーギル）

課題解決のための調べ活動は、書籍とコンピュータを活用しながら調べました。調べる活動では、「シナイモツゴ」という言葉をキーワードにして調べると、課題によっては、児童が期待した内容のものが見つからず、活動の中で課題の変更をする児童もいました。この時期の調べ活動は主に、児童個々の主体的な活動で進めてきており、調べることの難しさから活動に行き詰りを感じている児童もいました。

11月に、シナイモツゴ郷の会などが主催した『共同シンポジウム～水辺の自然再生～』の「第1部 ゆたかな自然を子どもたちへ」のリレートークに参加し、里親としての小学校の取り組みについて2名の児童が紹介しました。

（紹介した文）

シナイモツゴを育てて

鹿島台小学校 4年 千葉

拓真

ぼくとシナイモツゴとの出会いは、三年生のときでした。三階の四年生のろうかの前を通った時に、たくさんの水そうがならんでいて、その水そうで四年生がシナイモツゴという魚を育てているということが分かりました。

三年生のときに、四年生の人たちが、総合的な学習の時間にシナイモツゴの勉強したことをぼくたちに発表してくれました。発表を聞いて、シナイモツゴが絶滅危惧種だということと、ブラックバスに食べられていることを知り、四年生になったら、ぼくも育ててみたいと思いました。

今年、四年生になって総合的な学習の時間に、シナイモツゴを育てると聞いたときは、ちょっとおどろきました。

四月のからシナイモツゴの勉強が始まり、水そうの中を見たら、小さいシナイモツゴや大きなシナイモツゴが元気に泳いでいる様子が見えました。

総合的な学習の時間の授業で、シナイモツゴ郷の会のみなさんが来てくれて、いろいろなことを教えてくれました。例えば、シナイモツゴは、昔、品井沼に生息していたので、品井沼の名前から、シナイモツゴという名前になったことや、いなくなったと思われていたけど、再発見されたことなどについて教えてもらいました。

一学期には、鹿島台地区の池に稚魚の放流を四年生全員でしました。放流をしたときは、小さなシナイモツゴが早く育って大きくなってほしいと思いました。

学校での活動は、ろうかにある水そうの中のシナイモツゴの観察を一週間に一回しています。観察して気付いたことは、えさをあげるときに、水面の方に上ってきて、食べていることです。

ぼくは、総合的な学習の時間を利用して、シナイモツゴの水そうに入れていい物と、だめな物や、えさのことなどについて、コンピューターや図書室の本などで調べています。

シナイモツゴを観察し育てる活動を通して、川や池の水も大切にすることも分かりました。環境を良くするために、ごみを川や池に捨てないようにしたいと思います。

シナイモツゴは絶滅危惧種なので、これからも大切に育てて、増やしてい

きたいと思います。また、三年生の人たちにも、シナイモツゴのことをしっかり教えられるように、発表会までにもっと調べて準備していきたいと思います。

シナイモツゴの観察と飼育から

鹿島台小学校 四年 高橋

義宗

ぼくは、二年生のときに、四年生の友だちがいました。その年に、四年生の友だちが

「シナイモツゴの放流に行くんだ。」

と、いったので、四年生では、シナイモツゴを飼育しているんだなあと思いました。シナイモツゴとの出会いは、その時から始まりました。

三年生になって、四年生からシナイモツゴの発表を聞きました。その時の四年生の発表は、シナイモツゴのいる場所や絶滅危惧種であることや、シナイモツゴの天敵についてくわしく教えてもらいました。四年生の発表は分かりやすく、ぼくも四年生になったら、シナイモツゴの研究をして、発表されたときのようにしたいと思いました。

四年生になって、いよいよシナイモツゴを育てることになってうれしくなりました。二年生からずっと、四年生になったらシナイモツゴを育てたいと思っていたのが、かなったからです。

でも、始めた時は、どうしたらいいのかわかりませんでした。総合的な学習の時間の中で、世話の仕方や水そうのそうじの仕方を教えてもらいました。また、観察日記の書き方も教えてもらいました。

学級の全員で交代しながら観察を始めたころに、シナイモツゴ郷の会のみなさんが来てくれて、シナイモツゴのことを教えてもらいました。それを聞いて、シナイモツゴのことがよりくわしく分かりました。また、初めてシナイモツゴ郷の会の人たちが、シナイモツゴの保護をしていることに気がきました。

ぼくは、郷の会の人たちは、シナイモツゴの研究だけをしていると思っていたけど、守っているとは思いませんでした。そのことは、稚魚の放流の活動ではっきり分かりました。

しばらくして郷の会みなさんのお世話で、稚魚の放流の活動をしました。ぼくは、シナイモツゴの放流を早くしたいと思いました。やっと、ぼくの番になって放流しました。シナイモツゴの稚魚は、元気に泳いで行きました。そのときは、早く大きくなってほしいと思いました。

ぼくは、毎日、シナイモツゴの観察と世話をしています。日記も毎日書いています。えさは間違えないようにあたえています。

今ぼくは、シナイモツゴがどうしたら増やすことができるかとか、シナイモツゴの天敵、ブラックバスや他に何がいるかを調べています。ときどき、図書館に行って魚の図鑑などを見えています。

ぼくは、シナイモツゴを、これからも保護して、たくさん増やして放流していきたいです。そうできるように、これからもしっかり育てていきたいと思っています。

2学期後半は、3学期に行う3年生へのシナイモツゴの引き継ぎを兼ねた

発表会に向けて、児童の課題解決の状況を確認し、課題の内容に応じてグループを作り、発表の準備を進めることにしました。

(3) 3学期の活動

3学期は、各々の児童が調べきた内容について、3年生に向けてグループ毎に発表できるようにまとめる活動から始めました。発表の時期は2月下旬とし、それまでに発表の方法、発表資料・原稿の作成及び発表の練習をすることでした。

発表資料の作成では、模造紙に発表の要点をまとめたものや紙芝居風に資料をまとめたもの、そしてペープサートでの発表を考えているグループがありました。資料作りのポイントとしては、次の点を揚げました。一つ目は「見やすさ」、二つ目「分かりやすさ」です。作成した資料を全体の中でお互いに見合い、その印象について話し合いました。話し合いを通して、「見やすさ」の点では、文字の大きさや下線や彩色の効果についての改善点が出されました。また、対象が3年生ということから、「分かりやすさ」という点では、資料の中の情報量や語彙の難しさが改善点として児童から出されました。

発表資料と合わせて発表原稿の作成も行いました。資料の改善を図りながら、その内容を原稿の中で補っていくことも考えながら、発表の相手である3年生に、分かりやすい発表ができるように、原稿作りも繰り返し手直しを行いました。

発表の時間については、すべてのグループの発表が1時間以内で終了することも、発表の課題になりました。発表資料と原稿とを突き合わせて、グループ毎にストップウォッチで発表時間を計りながら、全体での時間の調整をしました。また、発表会は児童自身が主体的に運営することを目指していたので、全体の進行、各グループの進行役を決め、円滑に会が進むように、発表のリハーサルも繰り返し行いました。

(4) 発表会を終えて

3年生への発表は、学級単位で4年1組は3年1組へという形で行いました。全員が自分の課題をもって、その課題について発表を念頭において準備を進めてきたので、その内容を発表の段階で、精査し効果的な発表になるように工夫したので、発表は、分かりやすく予定通りの時間で終了することができました。

この発表から、次年度引き継ぐ3年生も、本校がシナイモツゴを飼育しているということを改めて、実感することができたのではないと思われました。

今年度の助成金で購入した用具は、次年度の飼育保護・観察活動でも役立ててもらい、さらに活動の意識が高まっていくことを期待します。

2 シナイモツゴから他の学習への発展

このようにシナイモツゴの飼育を通して、シナイモツゴの住むため池の水を利用して生産している「シナイモツゴ郷の米」についても学習し、5年生の総合的な学習の時間での「米作り」の学習する中で、環境や生産者の願いなどを考えた学習に発展させることができればと思っています。また、社会科の環境に関する学習や理科の四季を通じた生物の活動の学習、郷土や自然大切にする道徳教育やふるさと教育など様々な学習へと発展をさせていきたいと考えています

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）